

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念は作成中です。スタッフ全員で共有して実践に繋げて行きたいと考えています。	会社独自の運営理念が有り、理念の実現に向けてリーダーを中心に職員と一緒に検討し、各ユニットの理念も掲げています。また、毎月の目標も設定し、ユニット会議で定期的に振り返る機会も設ける等、職員全員で理念の実現に向け取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事やえんがわの会への参加、ボランティアの協力を通じて地域の方々と交流を持たせて頂いています。	保育園の夏祭りに見学に出かけたり、地域の中学生が体験学習に来てくれたりもしています。また、事業所広報を町内に回覧したり、地域の集いに参加したり、町内の防災訓練にも参加するなどし、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム新聞の発行を通じて活動を理解して頂けるよう対応している。今後は入居者様と一緒に出来るボランティア活動も検討していきたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催の中で、サービスや活動報告を行い、頂いたご意見を支援に活かしています。	2ヶ月に1回の運営推進会議では、民生委員、包括支援センター職員、自治会長、ご家族、ご利用者に参加していただき、単なる報告に留まらず具体的な取り組み内容や改善課題を話し合い忌憚のないご意見を頂いてサービス向上に活かせるよう取り組んでいます。また、その場を通して地域の理解と支援を頂けるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスに関して情報を頂きながら、業務に関しての実情や不明点などを確認させて頂いたりしています。	市の担当者には運営上の報告や相談、ご利用者の事例に応じては社会福祉協議会職員、包括支援センター職員も交え協議する機会も設けるなどし、サービスの向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決めて開錠を行っているが、完全開放に向けては実施できていない。身体拘束に関して2ヶ月に1回チェックシートを通じて禁止項目の理解を行い、拘束しないケアを目指しています。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、2ヶ月に1度は身体拘束について振り返りの機会を持ち、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回高齢者虐待・不適切ケア防止に関して、スタッフに意識確認のチェックを行っている。又定期的に研修を行うことで、防止に取り組んでいる。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、2ヶ月に1度は不適切なケアについて振り返りの機会を持ち、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として実際に制度を活用している入居者がおり、関係者とカンファレンスを行う機会はあるが、職員は研修を等して個々に学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明を行い、最後に質問や疑問を頂いています。また改定時等も書面で内容説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族アンケートを行い、ご意見、ご要望を頂く機会を設けており、結果をサービス向上に活かしています。	面会時及び運営推進会議等でも積極的に意見、不満、苦情を伺うよう心掛け、前向きに運営に反映させていくよう取り組んでいます。日ごろのご利用者とのやりとりで確認された意向はつづやきノートにまとめているほか、年に1度は会社でご家族へのアンケートを行ったり、ご家族参加型の忘年会も行き、意見・要望の確認を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回スタッフアンケートを行い、意見、要望を確認する機会を設けている。また定期的に個人面談を実施して、意見を確認して改善しています。	毎月のユニット会議やリーダー会議を通して定期的に意見や提案を聞く機会を設けています。また、職員との面談や、年に1度は職員へのアンケートも行っているほか、日々の業務を通して現場職員の声に耳を傾け運営に反映させています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望や希望を出来るだけ把握して、シフト作りや労働条件の改善に努めています。やりがいを持てるよう定期的な面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部の研修の機会を定期的に設けています。事業所内での経験年数に応じてキャリアアップの支援を行っています。また資格取得のサポートも充実しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事レクや情報共有等で交流する機会を設けています。質の向上に向けた取り組みを行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活から、グループホームに入居することになった場合の希望や要望を確認しながら、またご本人の気持ちをくみ取ること忘れず、安心できるよう関係作りを進めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族の話を良く聞き、困っていること、不安に感じていることなどを聞き取りながら、良好な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を把握したうえで、グループホームでの生活がその方に合っているかどうか？場合によっては他のサービスが適切か？など様々なアドバイスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをお願いしたり、出来ないことがあればお手伝いをして、協力しながら生活をされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望をご家族と共有しながら、スタッフが出来る事、ご家族にご協力していただくことを話し合いながら支援しています。	ご家族への毎月のお手紙の送付や事業所広報誌の送付も年4回行われています。ご家族の面会時に、ご本人の様子を伝えたり、以前の生活の様子をお聞きしたりして、ご家族との関係を深めています。ご家族の事情によりなかなか面会に来られない方には、お手紙や電話で必要に応じお話をさせていただき、信頼関係を築けるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご近所の方、友人の面会があり、外出、外泊を通して関係性を続けることができます。	職員と一緒に水墨画教室に通われるご利用者や、ご家族にも協力を得て、ご自宅へ出かけた後、行きつけの美容室に出かけるご利用者もおり、馴染みの関係が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様で参加できるレクリエーションの提供や、気の合いそうな方同士の関わりやすい、席の配置等の支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族の訪問は時々あります。時には親戚の入居の相談等もあり、支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や情報共有の中から、ご本人の希望や要望を聞き取り、出来るだけ支援できるように努めています。	ご利用者がどのような思いや希望を持っておられるのか常に伺ってはいますが真意は把握しづらい面も多く、できるだけ日々の暮らしの中での会話を充実させ表情なども考慮した上で、そこから感じられる思いや希望をくみ取る努力をしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や担当ケアマネ等から情報を収集し、スタッフ間で共有し支援に反映しています。	センター方式を活用し、入居の際にご家族から今までの生活歴や日中の過ごし方をお聞きして情報を把握しています。また半年に1度は見直しの機会を設け、日々の生活の中で得られた情報についても追加して、職員間で情報を共有しています。	調査時点でセンター方式が見直されていない方もいましたので、定期的に見直されるように改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の日々の様子を情報共有し、可能性に関してはいろんなことを提供する中で把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、ケアプラン更新時にはご本人、ご家族から意向を確認して現状に添ったケアプランの作成に取り組んでいます。	居室担当者が毎月モニタリングを実施し、3か月に1度は総括を行い、ご利用者、ご家族からの意向を取り入れ話し合いのもと介護計画を作成しています。	調査時点で介護計画に記載漏れがあったり、モニタリングシートにチェック漏れがある方、介護計画に関してご家族とのやりとりが記録されていない方もいましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報、連絡ノート等で日々の様子や情報を共有してケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズをスタッフ間で共有して、いろんな可能性を模索しながら、提供できるサービスを考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺のスーパーやコンビニ、ドラッグストアなど、様々な施設を必要に応じて利用できるよう、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族、ご本人の希望を考慮して、医療機関を決めています。受診に関しても状況に合わせて、相談の上受診しています。	現在ホームでの往診を受けている方も多いですが、定期的にご家族の支援のもと受診されているご利用者もいます。ご家族が対応できない時は職員が同行し状況を説明し、ご家族が同行される場合には詳しい状況を手紙にして持参して頂くなどしてかかりつけ医との情報交換及び関係構築に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を伝えたり、相談することで指示を仰いでいる。夜間も電話連絡が可能で、対応に困る時は連絡がつく状況で、アドバイスを貰っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況を確認しながら、主治医、看護師、相談員等に相談しながら早期退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	退院時や重度化しそうな状況に合わせて、ご本人ご家族、関係者と相談しながら今後における対応を決定しています。	事業所の重度化した際の対応の指針に基づき、契約時にご家族への説明を行っています。ご利用者の状態に応じては、ご本人及びご家族とかかりつけ医との話し合いを行い対応方針の共有化を図っています。また、時間をかけて段階的に終末期に向かう場合は其々の段階でご本人、ご家族、かかりつけ医及び関係者等で繰り返し話し合い方針を共有化しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の看護師による研修を行い、新入職員には緊急対応の研修を受けて貰い、実践に役立つよう取り組んでいます。	急変や事故の応急手当に関するマニュアルの確認やホーム内でも定期的に誤嚥や緊急時の対応に関する研修の機会を設け、緊急時に職員が適切な初期対応ができるようにされています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。(うち1回は夜間対応)また地域の防災訓練の参加もご入居者と共に行っています。	消防署の指示のもと定期的に日中の地震による火災や、夜間の火災を想定した避難訓練を行っており、非常用物品も確保されています。また、自治会や近隣住民へも協力をお願いしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや連絡時等は誰の事か分からないように工夫をしたり、個人個人の性格に合った声かけ、対応を行っています。	運営理念にもあるように個人の尊厳を大切に、一人ひとりの能力や人格を把握し、プライバシーを損ねないように言葉遣いや対応に努めています。また、事業所広報の写真の掲載の同意についても、契約時に書面で同意をいただいています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中でつづやきを拾って、ご本人がやりたいことを確認しています。また自己決定できるような声かけを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を尊重し、ペースに合わせた生活が送れるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着や外出着を選んで頂いたり、アドバイスを行うなど支援をしています。希望に応じて髪カットや毛染め等の支援も定期的に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望献立の日を作り食べたい献立を考えて頂いています。また米とぎやみそ汁作り、配膳、片付け等出来る限りのお手伝いをお願いしています。	ご利用者にもできる範囲で調理や後片付けを手伝ってもらったり、回転寿司やレストランなどへ外食にも出かけています。また、ご利用者と一緒に畑で野菜の収穫を行ったり、ちまき作りやおはぎ作りをしたり、季節に合わせて流しそうめんを行うなどし、ご利用者に食事を楽しんでいただくよう心がけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をもとに食事を提供しております。食事前や食間の水分補給の支援や状態に応じてトロミをつけたり、刻み対応などの提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援をしています。義歯の洗浄や舌ブラシでのケアの支援も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入を行い、排泄の状況を確認し、声かけ、トイレ誘導を行っています。	全てのご利用者に排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを日々把握し、一人ひとりの力や状態、習慣に応じて気持ちよく排泄できるように、その方に合った声掛けや誘導をし支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事量の確認を行い、なるべく下剤に頼らない支援を心掛けています。ヤクルトやヨーグルトの接種や食物繊維の多い食べ物等を意識的に提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間やお湯の温度等、個人の希望に合わせた対応を心がけています。	入浴を嫌がられるご利用者にも同性介助での支援を行ったり、入浴の曜日や時間帯は個人の希望やタイミングにできるだけ合わせて対応し、できるだけ入浴を楽しんで頂けるように支援しています。	ご家族への毎月のお手紙の中で、ご利用者の入浴状況についても状況報告をしっかりと行われることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間で電球の色を変えたり、室内、共用部の室温調整を行い、安眠に繋げています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋での確認、薬変更により分からない時は看護師や調剤薬局に確認するなどしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの外出支援、レクリエーションやボランティアのご協力を頂き、個々がやりたいことも含め、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望を聞いて、外出行事や買い物等の外出支援を行っています。ご家族からも外出や外泊の支援を行って頂いております。	天候に合わせて散歩や買い物に出かけたり、ご利用者との日頃のやりとりで意向を確認し、初詣やドライブに出かけたり、季節に合わせてお花見やぶどう狩り、さくらんぼ狩りなどの外出の機会を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方にはお買い物等で支払いをして頂いています。また持っていない方に関してもお預かりしているお小遣いの中から支払いをして頂く機会を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話をかけて頂いたり、年賀状、お手紙等を書いて頂く対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる壁飾りを行っています。またのれん、カーテン、ブラインドで光、音、温度調節を行い、目印をつけることで混乱をしないよう工夫しています。	共用の空間にはソファや和家具が設けてあり、観葉植物などでゆったり休める配慮がなされています。また、ご利用者の作品の掲示や写真の掲示もあり、日々の生活の状況が分かりやすくなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の席の配置を考えたり、食席の他に椅子やソファを配置して、好きな場所で過ごせる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り在宅で使用していた家具や馴染みの物を持ってきて頂き、落ち着いて過ごして頂けるように工夫しています。	入居時に今までの使い慣れたタンスや時計、装飾品を持ち込まれて、ご本人の希望に応じた配慮がなされており、居心地よく過ごせるように支援しています。模様替えも相談しながら行なっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の位置が分かるように印をつけたり、電化商品等の使用方法を掲示したり、分かりやすい工夫を行っています。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				